

まことの道

十月 神無月

かなづき

自身の意思で積極的に取り組み、

大きな決断力を持って、

失敗を恐れずに取り組むこと

進取果敢

家庭祭祀のすすめ

たなつもの 百の本草も 天照す

日の大神の めぐみえてこそ

朝宵に もの食ふごとに 豊受の

神のめぐみを 思へ世の人

本居宣長(江戸時代の国学者)



食事の時の「いただきます」「ごちそうさま」。

皆さんはきちんと言っていますか？

前歌は食前感謝のうた、後歌は食後感謝のうたです。

「日の大神」とは、皇大神宮(内宮)のご祭神

天照大御神さま。

「豊受の神」とは、豊受大神宮(外宮)のご祭神

豊受大御神さまです。

毎日食事ができるといふこと、生きていることは、大御神さまの恵みをいただいているといふことです。

皆様のご家庭でも神棚を設け、神宮大麻と氏神様をおまつりし、感謝の気持ちを持ってお参りしましょう。



神奈川県
神社庁
ウェブサイト

●七五三

一般には男児は三歳と五歳、女児は三歳と七歳のときに晴着をまとい氏神様にお参りし、成長を感謝し今後の無事の成育を祈願します。

七五三は、古くからの風習である三歳の「髪置(かみおき)」、五歳の「袴着(はかまぎ)」、七歳の「帯解(おびとき)」に由来するといわれ、「髪置」は男女児ともにこの日を境に髪を伸ばし始め、「袴着」は男児がはじめて袴を着け、「帯解」は女児がそれまでの幼児用の付紐をやめ、帯を使用し始める儀式でした。

現在のように、七五三を11月15日に盛大にお祝いするようになったのは江戸時代からのことで、五代将軍徳川綱吉が息子の徳松の健康を盛大に祈願したことから、それが庶民に広まったといわれています。

●新嘗祭

新たに穀物が収穫できた事を神様に感謝するお祭りで、五穀の豊穡を祈願する『祈年祭』とともに古くから行われています。「新嘗」とは新穀を神様にお供えすることを意味し、稲作を中心に発展してきた日本を象徴する重要な祭儀とされています。宮中では天皇陛下が新穀を皇祖はじめ神々にお供えになり、神恩を感謝された後、陛下自らも新穀を召し上がります。多くの神社では11月23日に行われています。

神奈川県神社庁

〒235-0019 横浜市磯子区磯子台20-1
TEL:045(761)6387 FAX:045(761)0100
E-mail:k-jinjacho@kanagawa-jinja.or.jp



ご自由に一枚ずつお持ち下さい。

神様の恵みに感謝しましょう。

たなつもの 百の本草も 天照す

日の大神の 恵えてこそ

朝宵に もの食ふごとに 豊受の

神の恵みを 思へ世の人

本居宣長（江戸時代の国学者）

食事の時の「いただきます」や「ごちそうさま」。皆さんはきちんと言っていますか？ 前歌は食前感謝のうた、後歌は食後感謝のうたです。

「日の大神」とは、皇大神宮（内宮）のご祭神 天照大御神さま。

「豊受の神」とは、豊受大神宮（外宮）のご祭神 豊受大御神さまです。

毎日食事ができるということ、生きていることは、神様の恵みをいただいているということです。

皆さんのご家庭でも神棚を設け、じんぐうたいま 神宮大麻とうじがみさま 氏神様をおまつりし、感謝の気持ちを持ってお参りしましょう。